

てもよいのですが、一般には平板の上に畳み上げ、両手でおしつけて水をきるやうにします。

◇ 紹・毛・人絹・スフなどを、強くねぢつてしばるとどうなりますか。

三 干し方

しぼつたものは、しわを伸し、形を整へて乾かしますが、色のあせやすい色物は日かげに干します。乾かすには、その形によつて、物干竿・衣紋掛・網などに掛けるか、或は張り手に張ります。又、毛絲・人絹の編み物のやうに、濡れると伸びて形のくづれやすいものは、なるべく張力がかゝらないやうに注意して干します。

仕上げ

洗濯したものは、その用途に適するやうに、仕上げをします。どんなに上手に洗つても、仕上げがわるいと見ばえがしません。

仕上げ用の糊としては、白い物には、生糸糊・姫糊のやうな澱粉類を、色物には、布海苔又は前記の澱粉類を用ひます。澱粉類は水を加へ、軽く煮て糊とします。布海苔は數時間温湯に浸し、中火でよく煮て糊とし、煮し袋で漬して用ひます。袋の中に残つた漬しかすは再び温湯を加へて煮てから更に漬して用ひます。

糊液は滾いめに作つておき、これを適宜に瀝めて用ひます。

糊附には、すゝいでしぼつて直ぐ行なふ場合と、一旦乾かしてから行なふ場合とがあります。糊のきめは糊の種類や漬さによるほか、布に含まれる水分の多少及び糊の日後のしぼり方などによつて、著しく左のとがります。

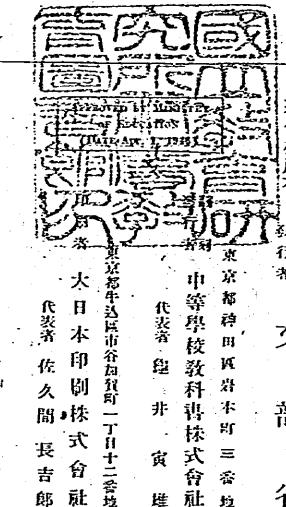
文部省調査實務刊行課寄贈
〔中〕￥.30.

(112).

中等被服二
文部省

一	羽織	羽織
	標準服乙型の羽織	標準服乙型の羽織
二	羽織	羽織
三	羽織	羽織
四	羽織	羽織
五	羽織	羽織
六	羽織	羽織
七	羽織	羽織
八	羽織	羽織
九	羽織	羽織
十	羽織	羽織
十一	羽織	羽織
十二	羽織	羽織
十三	羽織	羽織
十四	羽織	羽織
十五	羽織	羽織
十六	羽織	羽織
十七	羽織	羽織
十八	羽織	羽織
十九	羽織	羽織
二十	羽織	羽織
二十一	羽織	羽織
二十二	羽織	羽織
二十三	羽織	羽織
二十四	羽織	羽織
二十五	羽織	羽織
二十六	羽織	羽織
二十七	羽織	羽織
二十八	羽織	羽織
二十九	羽織	羽織
三十	羽織	羽織
三十一	羽織	羽織
三十二	羽織	羽織
三十三	羽織	羽織
三十四	羽織	羽織
三十五	羽織	羽織
三十六	羽織	羽織
三十七	羽織	羽織
三十八	羽織	羽織
三十九	羽織	羽織
四十	羽織	羽織
四十一	羽織	羽織
四十二	羽織	羽織
四十三	羽織	羽織
四十四	羽織	羽織
四十五	羽織	羽織
四十六	羽織	羽織
四十七	羽織	羽織
四十八	羽織	羽織
四十九	羽織	羽織
五十	羽織	羽織
五十一	羽織	羽織
五十二	羽織	羽織
五十三	羽織	羽織
五十四	羽織	羽織
五十五	羽織	羽織
五十六	羽織	羽織
五十七	羽織	羽織
五十八	羽織	羽織
五十九	羽織	羽織
六十	羽織	羽織
六十一	羽織	羽織
六十二	羽織	羽織
六十三	羽織	羽織
六十四	羽織	羽織
六十五	羽織	羽織
六十六	羽織	羽織
六十七	羽織	羽織
六十八	羽織	羽織
六十九	羽織	羽織
七十	羽織	羽織
七十一	羽織	羽織
七十二	羽織	羽織
七十三	羽織	羽織
七十四	羽織	羽織
七十五	羽織	羽織
七十六	羽織	羽織
七十七	羽織	羽織
七十八	羽織	羽織
七十九	羽織	羽織
八十	羽織	羽織
八十一	羽織	羽織
八十二	羽織	羽織
八十三	羽織	羽織
八十四	羽織	羽織
八十五	羽織	羽織
八十六	羽織	羽織
八十七	羽織	羽織
八十八	羽織	羽織
八十九	羽織	羽織
九十	羽織	羽織
九十一	羽織	羽織
九十二	羽織	羽織
九十三	羽織	羽織
九十四	羽織	羽織
九十五	羽織	羽織
九十六	羽織	羽織
九十七	羽織	羽織
九十八	羽織	羽織
九十九	羽織	羽織
一百	羽織	羽織
一百零一	羽織	羽織
一百零二	羽織	羽織
一百零三	羽織	羽織
一百零四	羽織	羽織
一百零五	羽織	羽織
一百零六	羽織	羽織
一百零七	羽織	羽織
一百零八	羽織	羽織
一百零九	羽織	羽織
一百一十	羽織	羽織
一百一十一	羽織	羽織
一百一十二	羽織	羽織
一百一十三	羽織	羽織
一百一十四	羽織	羽織
一百一十五	羽織	羽織
一百一十六	羽織	羽織
一百一十七	羽織	羽織
一百一十八	羽織	羽織
一百一十九	羽織	羽織
一百二十	羽織	羽織
一百二十一	羽織	羽織
一百二十二	羽織	羽織
一百二十三	羽織	羽織
一百二十四	羽織	羽織
一百二十五	羽織	羽織
一百二十六	羽織	羽織
一百二十七	羽織	羽織
一百二十八	羽織	羽織
一百二十九	羽織	羽織
一百三十	羽織	羽織
一百三十一	羽織	羽織
一百三十二	羽織	羽織
一百三十三	羽織	羽織
一百三十四	羽織	羽織
一百三十五	羽織	羽織
一百三十六	羽織	羽織
一百三十七	羽織	羽織
一百三十八	羽織	羽織
一百三十九	羽織	羽織
一百四十	羽織	羽織
一百四十一	羽織	羽織
一百四十二	羽織	羽織
一百四十三	羽織	羽織
一百四十四	羽織	羽織
一百四十五	羽織	羽織
一百四十六	羽織	羽織
一百四十七	羽織	羽織
一百四十八	羽織	羽織
一百四十九	羽織	羽織
一百五十	羽織	羽織
一百五十一	羽織	羽織
一百五十二	羽織	羽織
一百五十三	羽織	羽織
一百五十四	羽織	羽織
一百五十五	羽織	羽織
一百五十六	羽織	羽織
一百五十七	羽織	羽織
一百五十八	羽織	羽織
一百五十九	羽織	羽織
一百六十	羽織	羽織
一百六十一	羽織	羽織
一百六十二	羽織	羽織
一百六十三	羽織	羽織
一百六十四	羽織	羽織
一百六十五	羽織	羽織
一百六十六	羽織	羽織
一百六十七	羽織	羽織
一百六十八	羽織	羽織
一百六十九	羽織	羽織
一百七十	羽織	羽織
一百七十一	羽織	羽織
一百七十二	羽織	羽織
一百七十三	羽織	羽織
一百七十四	羽織	羽織
一百七十五	羽織	羽織
一百七十六	羽織	羽織
一百七十七	羽織	羽織
一百七十八	羽織	羽織
一百七十九	羽織	羽織
一百八十	羽織	羽織
一百八十一	羽織	羽織
一百八十二	羽織	羽織
一百八十三	羽織	羽織
一百八十四	羽織	羽織
一百八十五	羽織	羽織
一百八十六	羽織	羽織
一百八十七	羽織	羽織
一百八十八	羽織	羽織
一百八十九	羽織	羽織
一百九十	羽織	羽織
一百九十一	羽織	羽織
一百九十二	羽織	羽織
一百九十三	羽織	羽織
一百九十四	羽織	羽織
一百九十五	羽織	羽織
一百九十六	羽織	羽織
一百九十七	羽織	羽織
一百九十八	羽織	羽織
一百九十九	羽織	羽織
二〇〇	羽織	羽織

發行所 中等學校教科書株式會社
教科書番號 112 ノ二



中等被服二 〔中定價參拾錢〕

著作権所有 著作者

文部省

文部省檢察課

昭和二十一年四月五日 文部省檢察課

昭和二十一年四月五日 印刷局

同日發行

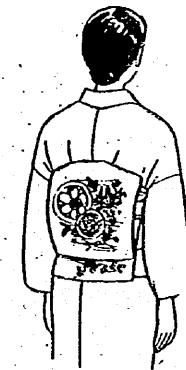
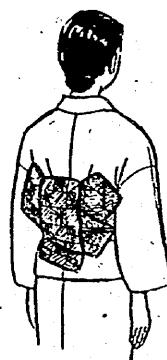


布の地質や用途によつては、糊を附けない場合があります。その例を舉げてごらんなさい。

糊附けする主な目的を考へてごらんなさい。

◆ 糊附けする場合、すゝいとしほつたばかりのものと、一旦乾かしたものとでは、糊の濃さをどう加減しますか。両方の仕方の得失に就いて考へてごらんなさい。

仕上げの方法には、疊みつけ・板張り・伸子張り・湯伸し・アイロンかけなどがあります。これらは織物の種類・用途その他の事情により、それぐ適否がありますから、どれによるかをよく考へてしなければなりません。



◇ 現代に用ひられてゐる帯の種類を擧げてご覧なさい。

帯は服装の全體を引きしめるものでありますから、その地質や色・柄など適當なもの選び、結び方にも注意しなければなりません。保健の上からいへば、重要な内臓を保護するのに役立ちますが、幅の廣い、重い帯を胸高にしめると、却つて内臓を壓迫しますから、狭く、軽く仕立てることが大切です。

地質

帯側 うは着・羽織などよりはやく厚地の物を選びます。

心 側の厚さや固さに相應しなければなりませんが、普通は厚地のなるべくしわにならないものを選びます。綿織物又は木綿と他の綿維との交織物や、近頃は紙布の心も用ひます。古い浴衣類を利用することもできます。

仕立て方

半幅帯

並幅を半分に折つて仕立てるので、かう呼んでゐます。元來は子供帯として、又は大人の羽織下帯として用ひたものですが、近來はこれを一般に用ひようとする傾向にあります。殊に標準服乙型には適當とされています。

一 寸法

標準服乙型のは幅一七センチ(四寸五分)以内、長さ二八〇センチ(七尺四寸)程度で、長さは體格によつて加減します。胴廻りをうは着の上から測つて、その二倍に、手の分として六〇センチ(一尺六寸)、結びの分として七〇センチ(一尺八寸五分)ぐらゐを加へます。

二 地直し

帯をしめてからくるはないやうにするために、帯側・心とも地直しが大切です。

帯側 雨耳を少し伸し加減に同じ程度に伸し、伸びにくいものは、淺く斜めに切り込みを入れます。次に裏から火のしをかけて、全體の布目を正しくします。

◇ 人絹や、絹と人絹の交織物などは、裏から霧を吹いて火のしをかけます。紙帯心はよくたき柔げます。

心 全體を水に浸し、ふししばりにして乾かし、火のしをかけます。

紙布は唯、火のしをかけるだけにしておきます。

浴衣類は洗つて糊を附け、敷伸し仕上げにします。

幅を二つ折りにし、その幅の中央に適當な間隔で待針を打ちます。

幅・丈とも縫い所の少し内側を、圖のやうにしつけ縫で假とおします。

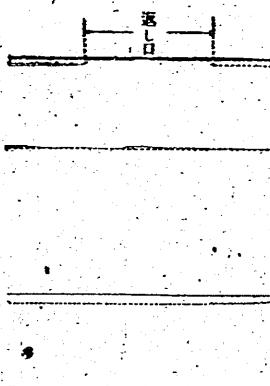
幅は出来上り寸法にきせとゆとりとを加へ、丈は、縫出しあるもののはその位置に注意してきます。

角が正しく直角になるやうに薄く通し標をして、丈の中央と、そこから手の方へ二五センチへ六寸五分、寄つた所とに、返し口の止まりまでは、絲留めをしない

◇ 角を正しく直角に仕上げるには、兩端の標をどのやうに附けますか。

四 縫ひ方

(イ) 側縫ひ 両端から一五センチ(四寸)ぐらゐは半返し縫ひにし、返し口を残して縫ひます。返し口の止まりまでは、絲留めをしない

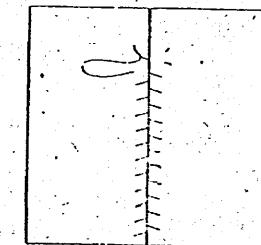


でふくか、又は図のやうにします。両端は半返し縫ひにし、角の所は、縫ひ代の折り返る間は、標より少し浅く縫ひ出します。

(ロ) 心ごしらへ 先づ耳を裁ち落として、幅を出来上りの帶幅に裁ちます。

◇ 滲衣地などの薄地の物を利

用する場合には、どうしたらよいですか。



心をほぐならば、図のやうに突合はせはぎにします。

(ハ) 心とぢ 縫つた帶側の縫ひ目に平えて、當てて縫ひ目を整へ、きせをかけ、丈縫ひ代を先に折つてとぢ、次に幅縫ひ代を折つてもう一度とぢます。

◇ 角をとぢ終つてから、丈の縫ひ代がゆるまないやうにするには、どうしますか。

次に帶側を平に置き、上に心を重ね、やゆるめにして、幅の中央に適當な間隔で待針を打ちます。次に返し口を残して心をとぢます。

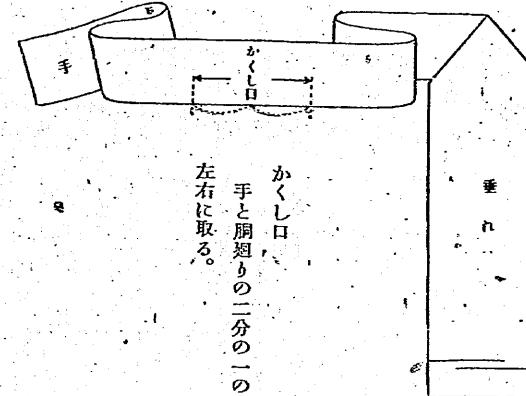
(ニ) しつけと返し口の始末

縫ひ目が正しく毛抜合はせになるやうに抜き針をしつけをかけます。返し口の間は、帶側の縫ひ代で心をくるんでとぢてから合

(ホ) 仕上げ 當て布か半紙の類を當てて、兩面から火のしをかけ、適當に疊んでおしを置きます。

なごや帶

一寸法



幅二七センチ(七寸)内外。體格・年齢や季節などを考へてきめます。

丈九〇一一〇センチ(二尺三寸八分から二尺六寸五分)。

幅・垂れの半分か布幅一ぱい。

脇廻りと手

幅・垂れの半分か布幅一ぱい。

二地直し

三縫ひ方

(イ) 垂れ 垂れの間を二枚平に合はせて幅の中央に待針を打ち、先づ両方

の縫ひ代をきめます。この時、模様。

縞の位置などに注意して、出來上り

の帯幅の間にかつかうよく出来るやう

にきめて、闊のやうに假とぢします。

次に本縫ひは、出來上り幅よりき

せとゆとりだけ廣く標して、半幅帶

と同じ要領で縫ひます。手とのさが

ひ目は三センチ(八分)縫ひ残して

おきます。

最後に垂れの端を縫ひます。

(ロ) 手・脇廻り・かくし 手と脇廻りの部分を中表に折つて、半幅帶のやうに假とぢし、幅標とかくし口の標とを附け、かくし口と返し口とを残して、本縫ひします。返し口は垂れと脇廻りとのさかひで二〇センチ(五寸三分)残します。次にかくしを作ります。かくし布

丈 かくし口の長さと四センチ(一寸)。

幅 出來上り幅より〇・五センチ(一分)狭いものの二倍。

かくし口の間の假とぢをほどき、幅標から〇・八センチ(二分)

内側へ、かくし布の縫ひ代も〇・八センチ(二分)にして縫ひ附け、かくし布の方へ折ります。兩側とも同じにします。

◇ かくし布は、縫ひ附けてから、帶の幅よりどれくらい狭くなりますか。

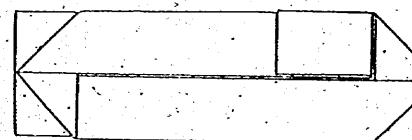
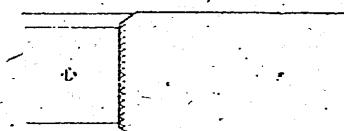
(ハ) 心とち 出來上り幅に裁ち、先づ、垂れの間だけ心の釣合を取つてとち附けて、表へ返します。胴廻りとのさかひの端は、三センチ(八分) 縫ひ残した所を斜めに折り、圖のやうに千鳥がけで心にとち附けます。

◇ 垂れの間の縫ひ代は、どちらへ折つたらいでせうか。

胴廻りと手の間は、心で縫ひ代を挟んでとちます。但し、かくし口と返し口とは向かふと手前と別々にとちます。かくし布の両端は縫ひ合はせて心にとち附けます。

◇ 心には真綿をひくことがあります。
が、どんな場合でせうか。ひくしたらどんな注意がいりますか。

(ニ) しつけと返し口の始末
(ホ) 仕上げ

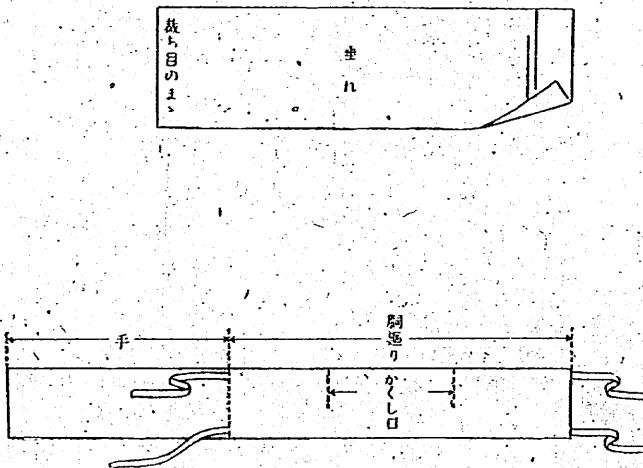


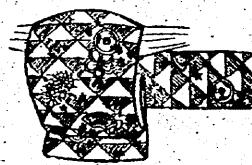
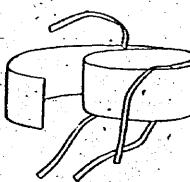
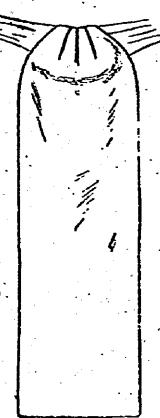
着用・手入れ

帯の着用にはどんな注意がいりますか。
帯の結び方をいろいろ工夫してごらんなさい。

〔増〕組合はせ帯

組合はせ帯にはいろいろあります。次のはその一例で、半幅仕立ての部分だけを羽織下帯として用ひることもできます。



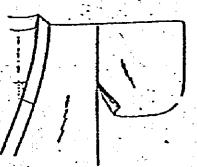


四 単 長 蒔

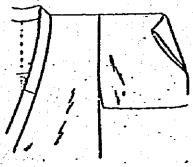
單長着は、長く用ひられて來た夏季のうは着であります。軽快で風通しがよく、脱ぎ着にも便利なのが特徴です。男物と女物とでは、地質も色・柄も形も違ひます。又、年齢によつて、おのづから差別がります。

大裁ち女物（その一）

形



元祫袖



角袖

標準服乙型にならひます。

仕立て方

一 寸法

身丈 一五〇センチ(三尺九寸五分)内外。

くり越し 一一二センチ(三分から五分)。

ゆき 六二センチ(一尺六寸五分)。

肩幅 三〇センチ(八寸)。

袖幅 三二センチ(八寸五分)。

袖丈 三八センチ(一尺)内外。

袖口 舟底袖 一七センチ(四寸五分)。

袖口 元脇袖・角袖 二一センチ(五寸五分)。

袖附け 二三センチ(六寸)。

身ごろ 縫幅 並幅四布ぐらる。

身八つ口 一三センチ(三寸五分)。

衿肩あき 八・五センチ(二寸三分)。

衿幅 五センチ(一寸三分)内外。

衿下 七六センチ(二尺)。

腰骨の下五センチ(一寸三分)ぐらるの所から足の申まで(身丈の二分の一)。

二 裁ち方

(一) 地直し

裁つ前に柄合はせに注意し、又縫りむら・染めむら・しみなどは、

目立たない所に行くやうに工夫します。

(二) 裁ち方



(後) ¥ 1.2

中等被服二

文部省